



N.S.ニュース速報A

**NSDAP/AO : PO Box 6414
Lincoln NE 68506 USA
www.nsdapao.org**

#1106

25.05.2024 (135)

ミヒャエル・キューネン (Michael Kühnen)

第二の革命 第二巻：人民の国家

第3部

帝国の思想

西洋の国々と東洋の国々との間には、古くからのつながりがあります：それは「帝国」という概念です。

何世紀もの間、ローマ帝国の軍団は地中海沿岸の統一を守ってきました。ローマ帝国が崩壊した後も、帝国の理念は生き続け、少なくとも西洋の統一理念としては存続した。西ローマ帝国ではゲルマン民族が、ビザンティウム崩壊後の東ローマ帝国ではスラヴ民族が、その担い手となった。西側ではドイツ民族の神聖ローマ帝国、第一次ドイツ帝国が誕生し、東側ではモスクワを第三のローマと呼び、ビザンチンの双頭の鷲をシンボルとしたロシア皇帝の帝国が誕生した。

ゲルマン人、スラヴ人、ローマ人、アラブ人、ペルシャ人、オスマン人は、この地域の将来の統一を担う共通の担い手である。オリエントの人々をつなぐイスラム教、ペルシャの再イスラム化、ゲルマン民族とスラヴ民

族の人種的統一は、かつてローマに支配されなかったヨーロッパとオリエントの世界の部分を帝国化するという考えにもつながっている。

インペリウム・ローマヌムの崩壊後、今日まで旧世界の統一性が破壊されたままであったにもかかわらず、それを再構築する試みが何度も何度もなされた：

私たちの時代の最初の千年紀の後半、アラブ人は地中海地域の南部全域を統一し、東はビザンティウム、現在のイスタンブール、西は南フランスまで進出した。この侵略によって、ヨーロッパではローマの伝統の名残とアラビアの新しいハイカルチャーが混在することになった。この文化的受精の最も顕著な兆候は、今日に至るまでアラビア数字が使われていることである。文学、言語、科学の分野でも、アラブの影響を排除したヨーロッパの知的歴史を想像するのは難しい。

アラブ世界帝国の後継者はオスマン帝国であり、彼らはビザンティウムを征服して直ちに帝国の首都とした。第二のローマの征服は、それだけにとどまらなかった：

東ローマ帝国の後継者であることを自認するトルコのスルタンをヨーロッパの軍隊が撃退できたのは、ウィーン以前のことであった。しかし、19世紀末までは、オスマントルコが南東ヨーロッパの大部分を支配していた。第一次世界大戦では、ドイツとオスマントルコは同盟国となり、軍事的にも政治的にも弱体であったにもかかわらず、アラビア全土を支配していたトルコは、ドイツ帝国にとって忠実で勇敢で断固とした同盟国であった。第一次世界大戦でドイツが勝利すれば、第二次世界大戦でアラビアが同盟を組んだように、何世紀ぶりかで地中海を統一することができただろう。

しかし、ローマの帝国思想の影響を受けて世界の統一を回復しようとしたのは、オリエントからだけではありません：

- ビザンティウムの東ローマ皇帝の後継者である皇帝たちは、汎スラブ主義、すなわち東ヨーロッパのスラブ民族の統一を推進し、ビザンティウムと地中海へのアクセスの権利を決して忘れなかった。このことは、今日に

至るまで、帝政ロシアの権力追求の常套手段であり、ボルシェビズムでさえも（理由は異なるが）変えることはなかった。

- 中世のあらゆる文化と支配の基盤であるカトリックのキリスト教は、今でも「ローマ・カトリック」を名乗り、ローマの司教ポンティフェクス・マキシムスへの服従を要求する。大小さまざまな十字軍は、パレスチナのいわゆる「聖地」を一時的にローマ帝国の勢力下に置いただけでなく、一時はビザンティウムを支配下に置いたこともある。

シャルルマーニュの後継者を名乗り、西方皇帝となったナポレオンは、エジプトで戦争をしただけでなく、息子に「ローマ王」という象徴的な称号を与え、自分と帝位継承者にローマの伝統に則った支配を主張した。

しかし、ローマ帝国の実際の継承者は、昔も今もゲルマン民族である。ドイツ民族の神聖ローマ帝国は1805年まで存在した。ホーエンツォレルン家の第二帝国も第三帝国も、勝利すれば西ヨーロッパ、東ヨーロッパ、トルコ、ペルシャ、アラビアをドイツの支配下に置くという大世界帝国を目指して戦い、失敗したのである。この戦いは、数千年にわたる伝統の中に、**私たちを位置づけ、その地位を確立したのです！**

偉大な征服者たちが力を激しく拡大する時代は終わった。何世紀にもわたって、アラブ人やオスマン人、スラブ人、ローマ人、ゲルマン民族は、意識的または無意識的に、ローマ人のような世界帝国を力によって確立し、それによって古い統一を再確立しようと努力してきた。今日、われわれ国家社会主義者は、いつか再び世界権力政治を追求し、シオニズムの力に逆らうことを可能にする、ライヒの理念を代表している。

しかし、これまでのところ、ローマ帝国の地球上の人種と民族の統一のための一つの基盤しか見えてきていない：それは、古代における共通の歴史と、失われた統一を回復しようとする絶え間ない試みである。

もちろん、それだけでは十分ではありません。一部の人しか知らないような遠い昔のことを、現在の政策に生かすことはできない。では、ここに挙げた民族に共通する興味や目標は何なのだろうか。

1.シオニズム-世界共通の敵との戦い。

共通の敵ほど、民族と民族の友好を促進し強化するものはない。しかし、ヨーロッパ・アラブ地域のすべての人々の主な敵は、シオニズムである。シオニズムは、国際主義の宣言を通じて、資本主義と共産主義を通じて、目覚めた国々を奴隷にしようとする。私たちが好むと好まざるとにかかわらず

ヨーロッパの諸国民をアーリア人の共同体に統合する、再興された国家社会主義ドイツは、必然的に、シオニズムをその前の苦い敵とみなすであろう。したがって、西ヨーロッパのすべての白人およびゲルマン民族は、自由のための反シオニスト闘争に肩を並べて立ち、すべての民族勢力の団結の必要性を知っている。

これは東欧のスラブ民族にも当てはまる。ポーランド人、ルーマニア人、クロアチア人、ロシア人など、彼らの一部には、共産主義政権でさえ無視できない力を持つ強い反ユダヤ主義の流れが息づいています。

東欧の国々に政治的秩序を指示することは、私たちの任務ではない。しかし、もちろん私たちは、共産主義の勢力圏における自由を求めるすべての努力に共感を持って従っている。解放後、これらの国々はおそらく新しい秩序への共通の政治的道を模索するだろう。その基礎となるのは、反シオニズム（常に反資本主義、反共産主義としても考えられている）とスラブ人の統一（汎スラブ主義）であろう。

私たちは、これらの民族に何かを指示したり、押し付けたりすることは望んでいません。彼らは、自分たちの民族の自由と主権の中で運命を切り開いていくでしょう。また、スラヴの大国であるロシアが最高権力者であり続けるかどうかも、彼らが独自に決定しなければならない。しかし、すべての白人の共通の運命を認識し、世界の疫病に立ち向かうスラヴの統一を基礎として、新秩序はヨーロッパ全土で形成され、帝国の理念は実現されるのです。

対立的な流れ、特にソビエト連邦の流れを少しは研究したことのある人なら、これらがむなしい夢や憶測でないことは知っている：ファシストや国家社会主義の思想と多くの接点を持つロシア・ナショナリズムが存在す

る。そして、このロシアのナショナリズムは、白人の人種意識、汎スラブ主義、反シオニズムを基盤としており、おそらく今日のソ連で最も強い反対運動である。この文脈で、私はとりわけ、1971年以来地下で流布されている「ロシア愛国者宣言」に言及する。

オスマン、ペルシャ、アラブというヨーロッパとアラブの棲み分けの残る国々は、イスラム教という共通の絆で結ばれています。イスラム教は、この地域で最も強い精神的・政治的な力を持っています。イスラムは、国家社会主義ヨーロッパの自然な同盟者である！

アラブ国民に反シオニズムを教える必要はない。パレスチナにおけるユダヤ人の土地窃盗は、あまりにも痛すぎる。イランとトルコでも、イスラム教の影響力の増大が、シオニズムに対するより強い戦線につながっている。なぜなら、今日のソビエト連邦とは異なり、反シオニズムの闘いにおいてこれらの人々を支援することは、我々の心に近い問題だからである。国家社会主義とシオニズムとの間の敵対関係の誠実さと断固とした態度は、疑う余地がない！

国家社会主義は、ヨーロッパの東西の人民と、イスラムの東洋の人民を統合している。どちらもシオニズムの中に最も危険な敵を認めている。これが、ヨーロッパとアラブの生活圏を結びつける第二の括弧である。

2.民族主義的世界戦線-搾取と抑圧に反対する闘い。

非同盟、第三世界、発展途上国と先進国の闘争という旗印のもと、この20年間、搾取と抑圧と闘うための民族主義的世界戦線が徐々に形成されてきた。国家社会主義は、この世界戦線の現状での活動にきわめて批判的である。その理由は、アリア人の国家共同体に関する章で詳しく説明したとおりである。

東西の支配体制に対する憎しみが、シオニズム、資本主義、共産主義に対抗する可能な同盟者として、民族主義的世界戦線を見ることになるのは事実である。- しかし、その一方で、発展途上国の要求を支持し、白人種の終焉を早めることによって、突然、人種闘争における戦線の反対側に立た

されるようなことがあってはならないのである。ここでわれわれは、利害の対立に直面している。それは、われわれが発展途上国を単一の組織として扱うのではなく、われわれの相互利益にかなういくつかの国と特別な関係を築く場合にのみ解決されうることである。

たとえば、アメリカが南米と中米を分別を持って扱い、さらに発展させたとしたら、それは白人種の間からすれば正しいことであつたろう。ドイツの指導の下にあるヨーロッパは、その生息地の人々に対するこの犯罪的な政策を避け、彼らとの特別な関係を獲得しなければならない。

しかし、私たちの生活空間は、ヨーロッパ全体、アラブ世界、ペルシャ、トルコを包含しており、帝国の思想は、これらの民族の新しい民族主義的世界戦線を確立するのに適しています。西洋と東洋の間の緊密な同盟は、地球上で最強のパワーに成長することができる。イスラムは、国家社会主義やファシズムとどこにも矛盾せず、これらの理想を補完する唯一の精神的力である。

ヨーロッパの知識・技術水準と東洋の天然資源は、この地域の繁栄を確保し、それを恒久的なものとする。国際主義的な盗賊による抑圧と搾取は、過去のものとなるだろう。ヨーロッパとアラブの輪は、未来の世界権力である。

3.第三の道-資本主義・共産主義との闘い。

しかし、ヨーロッパとアラブの生活空間の統一は、規制力だけでなく、唯物論への思想的対抗力にもなる。国家社会主義とイスラム教は、断固とした反シオニズムという共通点を持つだけでなく、資本主義や共産主義に対する姿勢においても一致しているのである。利子の束縛を断ち切るという国家社会主義の要求が、預言者モハメッドの戒律に対応するものを見つけるのは興味深いことである。しかし、利子経済は資本主義経済システムの中核をなすものである。

また、イスラム世界の基本的な反共姿勢も議論の余地はない。この地域における一時的に強いソ連の影響に惑わされてはならない：

アラブ諸国は、完全にシオニストに支配されたアメリカが一方的にユダヤ国家を支持しているため、ソ連に頼らざるを得ませんでした。しかし、共産主義者の空回りした優柔不断な援助には大きな失望がある。国家社会主義ドイツは、信頼できる勇気ある同盟国であるため、イスラム世界におけるソ連の影響力を速やかに断ち切ることができるだろう。

4.地政学的な論理。

西洋と東洋の統一という帝國的な考え方は、歴史的な伝統の中にその基礎がある。この地域の国々は、シオニズム、資本主義、共産主義という共通の敵を持ち、民族主義、ヴォルキッシュ、非マルクス主義の社会主義という思想的接点を認識している。これが、私たちがこれまでに確立してきたことである。これらを総合すると、すでに2つの文化圏の共同性が示唆されている。しかし、決定的な要因は、地政学的な論理であろう：

西ヨーロッパと東ヨーロッパ、トルコ、イラン、アラビアというこの地域は、安全で有望な生活空間の特徴をすべて備えています。人間と技術、経済と産業、農業と原材料、文化と文明、伝統と共通の利益、知識と経験。すべてが高い次元で存在し、実りある団結の中で新たな花を咲かせることができます。これがドイツ人の天性である。ローマの後継者として、ドイツの指導の下にあるゲルマン民族は、再びその歴史的使命を真剣に受け止めている。オクシデントとオリエントは共に属している。

国家社会主義とイスラム教は、新しい帝国の柱である。ヨーロッパ帝国が新たに興り、世界帝国に成長し、我々の民族の未来を確保する！

もちろん、この開発は長い時間をかけて行われる必要があります。そこで、私は、現在の実現可能性にこだわらず、あえて長期的な構想を練っています。それは、次のミレニアムのための目標であり、私たちの国家生活や民族生活に意味と希望を与えるための問題なのです。ドイツ人の十分な生活空間を確保する必要性に対する答えは、かつての

ようなカトリックではなく、国家社会主義を基礎とするヨーロッパ帝国の樹立にあるのです。

西ヨーロッパの帝国主義思想への関心は、原材料の供給を確保し、ヨーロッパの世界的地位を回復することである。東欧にとって帝国構想は、ボルシェビズムの非人間的な束縛から解放される道である。イスラム世界にとっては、資本主義や共産主義の抑圧者から解放され、貧困と後進性から抜け出す道を見出し、イスラムを新たな開花に導くチャンスである。ゲルマン民族、スラブ民族、モハメッド民族は、それぞれ自分たちのために、この地域内で密接なつながりを持つことに既得権益を持っている。この共通の関心から緊密な同盟関係が生まれるだろうが、その形態や形については、私たちはまだ何も言うことができない。私たちドイツ人は、もはや武力で生活圏を征服する必要はない：

国家社会主義が産業を国有化しないのは、経済に対する処分の力で十分だからであるように、ドイツ国民がとにかくこの地域の形成力であり、我々が目指しているヨーロッパとアラブの生活空間の統一が関係するすべての国民の利益になるのであれば、力によって生活空間を征服する必要はないのです。

帝国という考え方は、西洋と東洋の歴史の中で古くからある伝統ですが、同時に未来に対処するための新しい、革命的な考え方でもあるのです。

私は、この帝国の考え方が何を意味するのかを明らかにしようとした。これは、ノスタルジックなナンセンスや非現実的な空回りの話ではなく、ヨーロッパ・アラブ地域がドイツ人の自然な生息地であること、国家社会主義とイスラムが一緒になると途方もないパワーファクターを示し、世界を変えることができることを実感することなのです。ローマの名のもとに、この統一は長い間存在してきた。我々にとって、帝国という新しい考え方は、この地域の新しい秩序の戦いの叫びである！



NS KAMPFRUF
KAMPFSCHRIFF DER NATIONALSOZIALISTISCHEN DEUTSCHEN ARBEITERPARTEI AUSLANDS- UND AUFFBAUORGANISATION

September 1934
April 1947 (2. Aufl.)

Der Kampf geht weiter!

Wahing Jahre nach der Kapitulation der Wehrmacht am 8. Mai 1945 ist die nationalsozialistische Bewegung wieder da zu sein in der Nachkriegszeit. Und zwar nicht nur in Deutschland, sondern auf globaler Ebene!

Mehrheit von Massenmord, Verbrechen, Völkermord und Verbrechen haben nicht erreicht, das Kern der gesamten Idee unseres hoch geliebten Führers Adolf Hitler zu zerstören.

Alle Nationalsozialisten sind weniger gefährliche Völkler- und Rassenmordernischen Schurke als Schurke im Kampf um die Erlangung unserer rassenreinen Völkler.

Die Bewegung ist zwar wieder geworden, aber die Gefahr des hochgeliebten Völklers ist keine noch viel größer als in der Vergangenheit.

Die vornehmliche Aufgabe ist also Adolfs, die Völkermord - gegen alle wissen Völkler (V) - zu begreifen. Seine Mittel sind Erziehung, Überführung und Rassenreinigung.

Ob "legal" oder "illegal", ob im Wahlkampf oder im Massenmord, ob im Propagandakrieg bzw. auf dem Schlachtfeld anderer Art. Jeder Nationalsozialist hat seine Pflicht!

Hitl Hitler!
Gottard Lauth



TROTZ VERBOT NICHT TOT!



N.S.ニュース速報A
www.nsdapao.org
#1005 19.06.2022 (133)

NSDAP/AO: PO Box 6414 - Lincoln NE 68506 - USA

フロントレポート
モリーへのインタビュー
第3部

NSK: 現在のプロジェクトは、明らかに哲学的で、アートに関連したものです。

このような話題が政治に与える影響について、あなたの考えをお聞かせください。

モリーです。フォトギャラリーの更新は続けていますが、主に Adolf Hitler and the Army of Mankind (www.movingtheancient.com/truth.htm)に集中して取り組んでいます。現在2ページですが、まだまだやるべきことがたくさんあります。第二次世界大戦の戦後は、まさに情報の増量期です。1つのことについて情報を探しても、さらに2つほど調べたいことが出てくる。まるで、埋も




the **NEW ORDER**
Number 176 (132) Founded 1978 April 26, 2022 (132)

The Fight Goes On!

Seventy years after the capitulation of the Wehrmacht on May 8, 1945, the postwar National Socialist movement is stronger than ever not only in Germany, but throughout Europe.

Decades of mass murder, expulsion, persecution, and defilement have not sufficed to destroy the seed of the brilliant idea of our much loved Führer Adolf Hitler.

All National Socialists and other racially-aware conservatives and racial kinemen fight side by side for the preservation of our White folk.

The movement has indeed become stronger, but the danger of biological folk death is also much greater today than in the past.

The desperate enemy is in the process of committing genocide against all White folk. His means are non-White immigration, culture dilution, and race-mixing.

Whether "legal" or "illegal", whether in election halls or street battles, whether armed with propaganda material or on a battlefield of a different kind, every National Socialist must do his duty!

Hitl Hitler!
Gottard Lauth



TROTZ VERBOT NICHT TOT!

NSDAP/AOは世界最大です 国家社会主義プロパガンダサプライヤー!

多くの言語での印刷物およびオンライン定期刊行物
多くの言語の何百冊もの本
多くの言語の何百ものウェブサイト



BOOKS - Translated from the Third Reich Originals!
www.third-reich-books.com



NSDAP/AO
Fight Back!



nsdapao.org
Contact us to find out how YOU can help!